

まえがき

大学の先生は、とにかくにも、忙しい。研究費の管理、物品発注、旅費の請求、各種調査依頼に対する対応、自身の評価書の作成や研究室の掃除などの個人的な業務のほか、大学や学部の管理運営まで、教授から助教まで多少の仕事の違いはあれど、おおむね等しく忙しい。最近、これに加えて、地域の中核拠点として、産業や教育の活性化を目的とした地域への貢献も重要な仕事になっている。従って、夜遅くまでの勤務や土日の出勤もいとわれない。世間で言うところのブラック企業といわれても仕方がない。このような状況で、文句も言わず(よく耳にはするが)、声高に叫ばないのには訳がある。このような苦勞をしても、やりたいことや守りたいことがあるからである。それは、大学としての本来の仕事、つまり教育や研究にほかならない。そこに、研究の楽しみや喜びがあり、学会発表や論文執筆を通して世間に知らしめる達成感がある。また、それらの面白さを学生に伝える教育の醍醐味を味わえるからこそ、苦勞をいとわないのである。幸いにも、宮崎大学農学部は、農学、それは、あらゆる分野を含む総合科学であり、基礎研究から応用研究まで幅広く教育や研究を扱っているので、いろいろな分野で奮闘している教員や職員の話にはことかかない。教育や研究の楽しさ、喜び、おもしろさ、悩みや苦しみなど、教員や職員の経験や知識を元に興味ある物語を提供してくれるものと期待している。

最近、高校生の理科離れや日本人の博士課程大学院生数が減少している現状がある。この要因の一つとして、本来の科学することの面白さや大学での教育の楽しさが、進学を考えている中学生・高校生に伝わっていないためではないかと考えている。本企画を通して、宮崎大学農学部に入って教育を受けたい、研究をやりたい、そして将来の職業の選択枝の一つとして研究者を目指したいという若者が一人でも増えることを期待している。

農学部長 香川浩彦